

けんしゅうしましよ



道徳 主題名 目標に向かって責任ある行動を
中心内容項目 A 主として自分自身に関すること
(希望と勇気・努力と強い意志)
資料名 頂上はすぐそこに (文溪堂)
6の1 小林学級

5月20日(金)2校時、6の1において提案
授業が行われました。1学期の行事を関連させ
た大きなユニットの中の1時間の授業でした。



今後の道徳の授業作りに向けて

落ち着いた雰囲気の中、児童は教材文を通して「成しとげる」こととはいったいどのようなことなのか、じっくりと考えることができた授業でした。

授業研を通して、今年度の道徳の授業づくりを進める上での確認をいくつか行いました。中でも、教材文に登場する人物の心情を問わない流し方は、目指す授業のあり方を考えていく上で大変参考になるものでした。

①発問について

今回の授業では、心情を問わずに「心に残った事は何ですか。」と発問したが、教材全体を大きく捉えさせる発問となり、心情を追う授業から一歩踏み出したものになった。学年の発達段階に応じた指導や学習形態があり、低学年からいきなりこのような形ではとれない。学年に応じたステップを踏む必要があり、意識して取り組んでいくことが大切。

また、全体を通しての広い発問となるので、価値に迫っていくための切り返しの発問など、しっかりと準備する必要がある。

②評価指標等について

指導案の5「価値ある学びの内容」は教師がこの授業でねらいとしているところになる。指導案7本時の学習では、評価指標として道徳的心情、判断力、実践意欲の3点についてそれぞれ明記する。1時間の授業で全ての項目で、全員の児童を見取るのは難しいが、評価できた部分については個人の記録として残していくことができると考える。また、発問のねらいや教師の意図、授業の中のどの部分で、どのように評価していくかを表す意味でも指導案の中に明記していくことが必要。

③自己評価とノート作りについて

今回は①挙手の回数②考えを深められたか③印象に残った友達の3項目について評価を行った。自己評価については、今後全学年ノートを使用して行う。発達段階に応じた項目を設定する必要があるので、ブロック等で検討していく。また、ノートの使用の仕方やマスの数(低学年)についても検討する。

校長より

指導案は、昨年度に比べわかりやすくなった。指導案の中の記号(◎や★)の説明もどこかに明記しておく、よりわかりやすくなると思う。教師のねらいが明確で、児童の思いの深さが光った授業だった。

提案授業をしてくださった小林先生ありがとうございました。